

ぐんまエコアクション21倶楽部

第11回通常総会・研修会

ぐんまエコアクション21倶楽部（林整会長）は、6月30日、前橋市・ぐんま共済会議室において、第11回通常総会・研修会を開催した。

林会長が欠席のため、佐羽宏之副会長が挨拶を行った後、佐羽副会長を議長に議案の審議を行い、事業報告・収支決算、事業計画・収支予算、経費の賦課・徴収方法について、満場一致で原案通り可決承認・決定した。

議案の審議を終えた後、来賓の株式会社商工組合中央金庫前橋支店長・櫻井浩嗣氏が挨拶を述べた。



佐羽副会長

通常総会終了後、2部構成での研修会を行い、第1部では「エコアクション21の利益実感は本来業務の改善で引き出せる」をテーマに、エコアクション21審査人・笠原雅男氏が講師を務めた。



笠原雅男氏

笠原氏は、まず、エコアクション21は企業のレベルアップを図るための優れたツールであるとした上で、単純に電気・ゴミ・紙等の削減に取組むだけでは、内容が陳腐化し行き詰ってしまうと指摘。

更に、取組みを本来業務の改善につなげることで、エコアクション21による利益を必ず実感できるようにすると強調した。

最後に、本来業務の改善には、「ムリ・ムダ・ムラ」を徹底的に洗い出し、合理化を図ることが必要であり、その上で、エコアクション21の活動にそれを取り入れることが重要であると締めくくった。



百瀬真希氏

続く第2部では、「エコアクション21の取組みによる経営力向上」社員の気持ちをひとつにする本来業務の改善」をテーマに、株式会社みやま代表取締役・百瀬真希氏が講演を行った。

百瀬氏は、認証・登録前から社内環境活動に取組んでいたものの、審査の際に「現在の取組みは事務局だけのやつつけ仕事」と厳しい指摘を受け、全社体制での取組みの必要性を痛感したと説明。

その後、エコアクション21を中核に、本来業務の改善に取組む「みやま未来プロジェクト」に着手。結果として、売上高の大幅な向上に加え、従業員の連帯感を生み出すことに成功したと解説した。



講習会の様子